



コールセンターからの小さなよみもの

2019年1月31日

Vol.120

資産運用

インフレに負けない！資産運用とは

2018年は、相場環境の変化が大きな年でした。そのため、大切な資産を運用したものの、成果はいまひとつの結果となってしまう、投資に対して後ろ向きな気持ちになったり、「お金は減らなければいい」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。

しかし、もし急に物価が上昇し、これまでのお金の価値が減ってしまったら...？

そこで今回は、物価上昇(インフレ)に備えて、今一度、資産運用について一緒に考えていきたいと思います。



□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



コールセンターからの小さなよみもの

日常生活で買い物をしようとする、「前よりも値段が上がった」、「値段は同じだけど、内容量が減った」と感じることはありませんか？実際に、近年、「2%の物価上昇」を目指して、日銀が量的・質的金融緩和やマイナス金利等を導入したことや、原材料価格の上昇等により、モノの価値が徐々に上がって(物価上昇)いるのです。この物価上昇により、その分お金の価値が減っていくことで、みなさんの資産の価値はいつのまにか目減りしている可能性があるのです。

そこで、インフレ対応のための有効な手段の1つとして、「資産運用」があります。お金自身が働くことで物価上昇以上の収益を生み出すことができれば、減ってしまったお金の価値以上に資産を増やすことができる可能性があります。

そうした中で、一般的にインフレに強い資産として挙げられるのが、株式やREIT(不動産投資信託)です。株式は、企業の業績の鏡ともいわれます。企業が株式を通じてお金を集め、そのお金を活用して世の中により良い製品・サービス等を提供し更にその企業価値を高めていき、経済全体が成長していくことで、その恩恵を受けやすいのが特徴といえるでしょう。

一方、REITは相対的に利回りが高いことに加え、物価上昇により保有している物件の価値の上昇や賃料も増加しやすいという点から、インフレ対応の資産として魅力があるといわれています。いずれの資産も、相場環境の悪化等で大きく変動することはあるものの、長期的に見ると世界経済の成長により右肩上がりに推移しています。

また、買うタイミングを分散させることも大切で、その方法の1つが積立投資です。例えば、投資信託を積立投資する場合、同じ頻度で一定額を購入するため、基準価額が高い時には口数が少なく、基準価額が低い時には口数を多く買えることになり、購入単価が分散され、高値で購入するリスクが抑えられる点がメリットです。加えて、比較的少額から積み立てることができるので、少しずつ将来に向けたインフレ対応ができるのです。

いよいよ、人生100年時代。長い人生を謳歌するために、インフレに負けない資産運用を少しずつ始めてみるのはいかがでしょうか。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00